

皆さん、ようこそ山梨予備校へ入学してくださいました。教職員一同、皆さんを心から歓迎いたします。私たちは、これから皆さんと共に山梨予備校で過ごす日々をたいへん楽しみにしています。予備校時代を経験することは皆さんの人生の大きな財産になります。その現場に立ち会えることを光栄に感じています。

できれば予備校には入学したくなかった、というのが皆さんの本音でしょうか。同じ勉強をまた繰り返し返すのか、というばやきも聞こえてきそうです。しかしこれからの一年は同じ勉強の繰り返しではありません。一度学んだ内容を「これはつまりどういうこと?」、と素朴な疑問を持って捉え直す姿勢が求められます。受験勉強は大学合格のための手段に過ぎないという人もいますが、物事を多面的・多角的、時に直観的に捉える姿勢は自分の生きていく土台です。私は受験勉強の重要性を信じます。あっさり大学に行く前に一旦踏みとどまってじっくり勉強する、全ての受験生にできればそういう機会があつてほしいと思います。

友だちは大学生活を始めている、そういう無念さもあるでしょう。人生をよく道に譬えるところから、人より先を歩くとか、人に遅れて歩くとかのイメージが生まれます。しかし人生は毎日の生活そのもの、何かに取り組むことが人生です。人生に長さははない。大学にいつ入るのか、など気にする必要は全くありません。

さて本日は、山梨予備校における新生活が始まるにあたり、次の言葉を皆さんに紹介します。「天命之謂性、率性之謂道」(『中庸』)。「天の命ずる、之を性と謂い、性に率(したが)う、之を道と謂う」と読みます。『中庸』は、「子曰(のたまわ)く、…」の『論語』で有名な孔子が著したもので、その冒頭に出てくるのがこの言葉です。

前半は、人の本性つまり性格とか能力は天から命じられたもの、与えられたもの、という意味のようですが、それは、ありのままの今の自分でいいんだ、ということでしょうか。さきほどの「これはつまりどういうこと?」、と素朴な疑問を持ってください。ここでは、ありのままの自分ということの捉え方が大事です。

これがあるのままの自分、と思っているその自分は、天から与えられた性格や能力を存分に発揮しているのかどうか、が問われていると思います。性に率(したが)う、とはそれを問い続けること、その問い続ける姿が道なのでしよう。道とは、自分がたどる足跡ではなく、今まさに生きている自分の姿だと思ってください。

ところで、予備校生活は順調には進まないかもしれません。不安で気持ちよくじけそうになることもあるでしょう。しかしそこから立ち上がれる自分を信じてください。何度も立ち上がる、その立ち上がる視線の先には未来の皆さんがいます。未来の皆さんは、健気に前を見つめる過去の自分の姿に励まされるのです。

私にも予備校生、浪人生の経験があります。四十七年前の経験が、私の人生の支えになってきました。予備校は必要に迫られて仕方なく行く所と観念して通いましたが、その後、予備校時代を振り返るたび、その記憶に自分の人生は支えられてきたと感じます。人生とは記憶である、とまで考えるようになりました。

皆さん、浪人生(あえてこの表現を使います)として堂々と振舞ってください。山梨予備校でひたすら机に向かう毎日が皆さんの人生のひとときを輝く一時期となることを、そして来春、山梨予備校に通って本当によかったとしみじみつぶやいてくださることを願いながら、私は遥か校長室から皆さんの奮闘を祈り続けています。

令和七年四月十四日